

千葉開府900年記念事業推進計画を策定しました ～千葉一族からの学びを活かし、未来へ向けたひとづくり、文化づくり～

千葉市では、令和8年の千葉開府900年に向けた記念事業の推進体制として、市内経済団体・学術関係団体等による第2回の協議会を本日開催し、記念事業の基本的な考え方や体制、スケジュールなど、取り組みの全体像を共有するための「千葉開府900年記念事業推進計画」を策定しましたので、お知らせします。

1 趣旨

令和8（2026）年、千葉市は、まちが開かれてから900年という大きな節目を迎えます。大治元（1126）年6月1日に、桓武天皇の子孫、常重が、現在の緑区大椎町から中央区亥鼻付近に本拠地を移し、初めて「千葉」と名乗り、ここに千葉のまちとしての歴史が始まったとされています。

そして現在、先人たちの礎のもと、本市は人口約98万人の首都圏有数の大都市へと発展を遂げた一方、変化が激しく先行きが不透明な時代の中で、わたしたちは、自らが未来を切り拓いていく姿勢と行動を求められながら暮らし、活動しています。

このまちを開いた千葉一族は、動乱の時代に知力・胆力をもって挑戦し、自ら未来を切り拓き、持続的な都市経営を行いました。このチャレンジスピリットを、今を生きるわたしたちが受け継ぎ行動することを通じて、人とまちがともに輝く未来へとつなげていくことこそが、千葉開府900年の最も重要な意義であると言えます。

このような認識の下、市民、団体、企業、大学、行政など多様な主体が、この歴史的節目を迎える喜びを分かち合うとともに、千葉一族からの学びを活かしながら記念事業を行い、次代を担う若い世代が千葉市に誇りを持ち、より豊かな未来につなげていくことができるよう、記念事業の基本的な考え方や体制、スケジュールなど、取り組みの全体像を共有するために策定するものです。

2 概要

(1) 基本理念・方針

ア 基本理念

千葉一族からの学びを活かし、未来へ向けたひとづくり、文化づくり

イ 基本方針

- ・千葉市に関わるすべての市民・団体・企業等を主体とします。
- ・千葉一族の「未来を切り拓くチャレンジスピリット」を受け継ぎ、未来の豊かな地域社会の実現に向けて取り組みます。
- ・個人の個性や能力を尊重するとともに、多様性を認め合い、必要に応じて柔軟に連携しながら取り組みます。
- ・100年先の開府1000年に豊かな郷土・千葉市を引き継げるよう、取り組みにあたっては、環境負荷の低減など、持続可能性に配慮します。

(2) 記念期間等

記念期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日

先行期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日

※なお、令和6年4月1日～令和7年3月31日は準備期間とする。

(3) 実施体制

千葉市のほか、市内市民団体・経済団体・学術団体等の民間団体により組織される協議会（構成団体は別添「千葉開府900年記念事業推進計画」5ページを参照）が官民をあげて記念事業を推進します。

協議会の構成団体以外の市民、団体、企業等が幅広く記念事業に参画できるよう、多様な参画手段を提供する仕組みとして、メンバーシップ制度を設けます。

3 主な取り組み

(1) 機運醸成およびブランディング

ロゴマーク・キャッチコピーを市民等の参加により制作する予定です。また、千葉開府900年に対する認知度向上や郷土への愛着醸成のためのプロモーションを実施します。

(2) 記念式典・オープニングイベント

千葉常重が亥鼻付近に本拠地を移してから900年に当たる令和8年6月に、開府900年を記念する式典およびオープニングイベントを行います。

(3) 祝祭イベント

令和8年度に歴史的な節目を迎える喜びを分かち合い、祝うイベントを行います。

(4) 記念事業

市内全域を対象とし、本推進計画の趣旨に合致するもので、令和7～8年度に実施する事業を募集し、記念事業として認定します。記念事業は開府900年記念の公式ホームページ等での周知やロゴマーク・キャッチコピーの使用許可、のぼり旗などPRグッズ提供などの支援を行います。

(5) 記念商品

商品自体やパッケージなどで開府900年を記念する商品であることがわかるもので、令和7～8年度に販売する商品を募集し、記念商品として認定します。記念商品は記念事業は開府900年記念の公式ホームページ等での周知やロゴマーク・キャッチコピーの使用許可、販路となる事業者等への紹介などの支援を行います。

※主な取り組みのスケジュールは別添「千葉開府900年記念事業推進計画」7ページを参照

4 添付資料

千葉開府900年記念事業推進計画